



2020年12月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2020年8月11日

上場会社名 株式会社オークネット 上場取引所 東
 コード番号 3964 URL https://www.aucnet.co.jp
 代表者 (役職名)代表取締役社長C00 (氏名)藤崎 慎一郎
 問合せ先責任者 (役職名)執行役員コーポレート部門DM (氏名)谷口 博樹 (TEL)03(6440)2552
 四半期報告書提出予定日 2020年8月11日 配当支払開始予定日 2020年9月1日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 有(機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2020年12月期第2四半期の連結業績(2020年1月1日~2020年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年12月期第2四半期	10,416	4.6	1,768	32.9	1,803	36.5	1,059	60.6
2019年12月期第2四半期	9,960	△0.7	1,331	△25.9	1,320	△28.4	659	△31.1

(注) 包括利益 2020年12月期第2四半期 1,005百万円(28.7%) 2019年12月期第2四半期 781百万円(△11.0%)

	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益	
	円	銭	円	銭
2020年12月期第2四半期	38	33	37	99
2019年12月期第2四半期	23	97	23	71

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年12月期第2四半期	30,709	61.0	19,036	61.0		
2019年12月期	29,324	61.6	18,333	61.6		

(参考) 自己資本 2020年12月期第2四半期 18,746百万円 2019年12月期 18,063百万円

2. 配当の状況

	年間配当金					
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計	
2019年12月期	円	銭	円	銭	円	銭
2020年12月期	—	13.00	—	13.00	26.00	
2020年12月期(予想)	—	10.00	—	10.00	20.00	

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年12月期の連結業績予想(2020年1月1日~2020年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
通期	20,328	3.3	2,582	2.3	2,681	1.9	1,430	1.9	51	77

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

2020年12月期 2 Q	27,822,700株	2019年12月期	27,769,300株
---------------	-------------	-----------	-------------

② 期末自己株式数

2020年12月期 2 Q	147,316株	2019年12月期	147,316株
---------------	----------	-----------	----------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

2020年12月期 2 Q	27,641,633株	2019年12月期 2 Q	27,522,515株
---------------	-------------	---------------	-------------

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等につきましては、添付資料P.3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	1
(1) 経営成績に関する説明	1
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(セグメント情報等)	9
(重要な後発事象)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

当第2四半期連結累計期間における我が国経済は、依然として新型コロナウイルスの影響が継続しているものの、各種政策の効果もあって、徐々に社会経済活動の再開が行われてきたことで厳しい状況から持ち直していくことが期待されています。しかしながら、今後も国内外において新型コロナウイルスの動向を注視していく必要があり、先行きは依然として不透明であります。

このような状況のなか、当社は、「あしたの流通を創造する」をブランドステートメントと掲げ、①次世代の情報流通・新サービスの創造、②競合を凌駕するサービス徹底強化、③海外事業モデルの確立・事業展開等の改革を推進し、社会的価値、経済的価値の更なる向上に努めております。

この結果、当第2四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高は10,416,552千円（前年同期比4.6%増）、営業利益は1,768,942千円（前年同期比32.9%増）、経常利益は1,803,028千円（前年同期比36.5%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,059,526千円（前年同期比60.6%増）となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

(イ) 四輪事業

当事業と関連の深い自動車業界では、当第2四半期連結累計期間の新車登録台数（※6）は、前年同期比19.8%減の220万台、中古車の登録台数（※7）は、同4.8%減の346万台、中古車オークション市場の出品台数（※8）は、同7.8%減の367万台、成約台数（※8）は、同13.0%減の220万台となりました。

新型コロナウイルスの影響により、市場動向が低迷している中、当社の中古車オークションでも、ディーラー系・レンタリース系の主要会員の参加が大幅に減少したことや輸出の一部制限により、出品台数、成約台数ともに前年同期を下回りました。このような状況を打開すべく、業界全体への緊急対策支援として取引手数料の特別価格設定や出品に掛かる陸送費用の補助、非会員に対する中古車オークションへの参加の開放等の施策をいち早く実施し、流通の減少を最小限に抑える取組を行いました。また、車両検査サービスでも、新車、中古車販売の不振の影響から、受託検査台数が減少し、前年同期を下回りました。一方、ライブ中継オークション及び落札代行サービスでは、新型コロナウイルスの影響はあったものの外出自粛下でのリモート対応の広がりにより、ライブ中継オークションの参加ニーズが高まったことで落札台数、落札シェアは前年並みを維持しました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は（セグメント間の内部売上高を含む）5,720,437千円（前年同期比8.1%減）、営業利益は1,674,727千円（前年同期比14.4%減）となりました。

（※1）中古車オークションとは、当社が主催するオンラインで行う会員制のリアルタイム中古車オークションのことです。

（※2）共有在庫市場とは、当社の会員ネットワークを活用し、会員が所有する中古車店頭在庫の情報を会員間で共有し取引する市場のことです。

（※3）ライブ中継オークションとは、当社が業者間取引の市場である現車オークション会場と提携し、現車オークション会場が主催するオークションを中継するサービスのことです。

（※4）落札代行サービスとは、株式会社アイオークが業者間取引の市場である現車オークション会場等に出品される中古車の落札・出品・決済・輸送の代行を行うサービスのことです。

（※5）車両検査サービスとは、株式会社AISが出品車両の検査及び車両検査技能に関する研修を行うサービスのことです。

（※6）一般社団法人日本自動車販売協会連合会統計資料より

（※7）一般社団法人日本自動車販売協会連合会統計資料及び一般社団法人全国軽自動車協会連合会の統計資料より

（※8）ユーストカー総合版+輸出相場版より

(ロ) デジタルプロダクツ事業

当事業は、中古スマートフォン・中古PC等の中古デジタル機器のオークション及び流通に付随するサービスで構成されています。

国内事業において、販売台数が昨年同期と比較して増加したことや、昨年来取り組んできた販売網の強化によって販売単価が上昇したこと等により、取扱高、台あたり利益がそれぞれ前年同期を上回りました。加えて、販売費及び一般管理費の削減や事業基盤の改革を積極的に行ったことにより、業績を大幅に改善することができました。また、中古PCの流通でも、テレワークの広がりにより、会員数、取扱高が前年同期を上回りました。一方、米国事業においては、新型コロナウイルスの感染の拡大に伴う在宅命令等により経済活動の停止を受け、事業の進展には至りませんでした。新たな機会獲得に向けた取引交渉を再開しております。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は2,953,309千円（前年同期比57.8%増）、営業利益は1,223,282千円（前年同期比236.1%増）となりました。

(ハ) その他情報流通事業

当事業は、ブランド品、中古バイク、花き（切花・鉢物）のオークション及び流通に付随するサービスで構成されています。

ブランド品は、海外ユーザー向けの日本商品購買代行サービス事業を提供している企業との事業提携、国内外での会員数拡大、リモートワーク推進キャンペーン等により、会員のオークション参加が活発になり、成約数の増加につながりました。また、高級腕時計の出品増加が平均成約単価の上昇要因となり、取扱高は前年同期を上回りました。中古バイクは、オークションにおいて、成約台数が前年同期の水準となり、成約率では前年同期を上回っているものの、新車の販売不振や新型コロナウイルスの影響により、商材の確保が難しい状況が続いており、出品台数は前年同期を下回りました。花き(切花・鉢物)は、新型コロナウイルスの影響により、小売店の営業自粛や冠婚葬祭等を含むイベントのキャンセル、縮小に伴い、商材の需要が低下したことで、取扱高が前年同期を下回りました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は1,328,392千円（前年同期比2.6%減）、営業利益は333,117千円（前年同期比0.8%増）となりました。

(ニ) その他事業

当事業は、システム開発及び提供、通信及び運営保守サービスの提供、中古医療機器関連事業、海外事業等で構成されています。

当第2四半期連結累計期間の売上高は（セグメント間の内部売上高を含む）745,126千円（前年同期比13.4%減）、営業損失は237,742千円（前年同期は営業損失156,411千円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べて1,384,673千円増加し、30,709,322千円となりました。これは主に、現金及び預金が1,732,541千円、受取手形及び売掛金が56,838千円増加したものの、オークション貸勘定が71,449千円、有形固定資産が18,747千円、無形固定資産が88,022千円、投資その他の資産が142,411千円減少したことによるものであります。

負債合計は、前連結会計年度末に比べて681,501千円増加し、11,672,595千円となりました。これは主に、買掛金が53,461千円、オークション借勘定が440,563千円、未払法人税等が202,814千円、株式給付引当金が20,661千円、退職給付に係る負債が35,707千円増加したことによるものであります。

純資産合計は、前連結会計年度末に比べて703,171千円増加し、19,036,726千円となりました。これは主に、資本金が29,428千円、資本剰余金が26,271千円、利益剰余金が698,528千円、非支配株主持分が20,738千円増加したものの、その他有価証券評価差額金が60,629千円、為替換算調整勘定が6,103千円、退職給付に係る調整累計額が5,061千円減少したことによるものであります。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期会計期間末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べて1,682,541千円増加し、15,444,150千円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況と、それらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動により増加した資金は、2,348,591千円となりました。収入の主な内訳は、税金等調整前四半期純利益1,794,351千円、減価償却費371,983千円、たな卸資産の減少額194,304千円、オークション借勘定の増加額440,563千円であり、支出の主な内訳は、法人税等の支払額541,794千円であります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動により減少した資金は、329,905千円となりました。これは主に、定期預金の預入による支出340,000千円、定期預金の払戻による収入290,000千円、無形固定資産の取得による支出264,704千円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動により減少した資金は、362,542千円となりました。これは主に、親会社による配当金の支払額360,944千円によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、2020年2月14日に公表している業績予想に変更はありません。

なお、第2四半期連結累計期間の業績は好調に推移した一方で、新型コロナウイルスの影響は予断を許さない状況が継続しているため、業績予想は変更しておりません。今後、状況の進展や事業動向を踏まえ、業績予想の修正が必要となった場合には、速やかにお知らせいたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	14,701,608	16,434,150
受取手形及び売掛金	849,107	905,946
オークション貸勘定	3,589,476	3,518,027
その他	3,333,990	3,258,732
貸倒引当金	△23,529	△32,347
流動資産合計	22,450,654	24,084,508
固定資産		
有形固定資産	1,482,512	1,463,764
無形固定資産	1,513,036	1,425,013
投資その他の資産	3,878,446	3,736,035
固定資産合計	6,873,994	6,624,813
資産合計	29,324,649	30,709,322
負債の部		
流動負債		
買掛金	604,799	658,260
オークション借勘定	6,040,109	6,480,672
未払法人税等	493,100	666,751
その他の引当金	118,168	190,416
その他	1,199,558	1,021,929
流動負債合計	8,455,736	9,018,030
固定負債		
株式給付引当金	74,980	95,642
退職給付に係る負債	1,620,592	1,656,300
その他の引当金	10,532	13,077
その他	829,251	889,544
固定負債合計	2,535,358	2,654,565
負債合計	10,991,094	11,672,595
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,729,168	1,758,596
資本剰余金	6,782,326	6,808,597
利益剰余金	9,484,599	10,183,127
自己株式	△241,056	△241,056
株主資本合計	17,755,037	18,509,265
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	246,330	185,700
為替換算調整勘定	4,466	△1,637
退職給付に係る調整累計額	58,106	53,045
その他の包括利益累計額合計	308,903	237,109
非支配株主持分	269,613	290,352
純資産合計	18,333,554	19,036,726
負債純資産合計	29,324,649	30,709,322

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2019年1月1日 至2019年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2020年1月1日 至2020年6月30日)
売上高	9,960,721	10,416,552
売上原価	4,545,259	4,518,885
売上総利益	5,415,461	5,897,666
販売費及び一般管理費	4,084,038	4,128,724
営業利益	1,331,423	1,768,942
営業外収益		
受取利息	3,759	34,886
受取配当金	11,917	34,032
その他	74,193	18,805
営業外収益合計	89,870	87,725
営業外費用		
支払利息	1,082	475
為替差損	82,076	26,549
持分法による投資損失	—	8,337
貸倒引当金繰入額	14,579	18,234
その他	2,756	42
営業外費用合計	100,495	53,639
経常利益	1,320,798	1,803,028
特別利益		
投資有価証券売却益	10,000	—
その他	157	—
特別利益合計	10,157	—
特別損失		
関係会社株式評価損	73,244	8,676
その他	22,238	—
特別損失合計	95,482	8,676
税金等調整前四半期純利益	1,235,474	1,794,351
法人税等	547,915	717,244
四半期純利益	687,558	1,077,107
非支配株主に帰属する四半期純利益	27,958	17,580
親会社株主に帰属する四半期純利益	659,600	1,059,526

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2019年1月1日 至2019年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2020年1月1日 至2020年6月30日)
四半期純利益	687,558	1,077,107
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△1,559	△60,629
為替換算調整勘定	△13,103	△6,103
退職給付に係る調整額	108,135	△5,061
その他の包括利益合計	93,472	△71,794
四半期包括利益	781,031	1,005,312
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	753,073	987,731
非支配株主に係る四半期包括利益	27,958	17,580

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2019年1月1日 至2019年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2020年1月1日 至2020年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	1,235,474	1,794,351
減価償却費	300,974	371,983
貸倒引当金の増減額(△は減少)	6,217	35,470
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	23,952	28,377
株式給付引当金の増減額(△は減少)	20,344	20,661
その他の引当金の増減額(△は減少)	86,193	74,841
受取利息及び受取配当金	△15,676	△68,919
支払利息	1,082	475
持分法による投資損益(△は益)	△27,570	8,337
関係会社株式評価損	73,244	8,676
売上債権の増減額(△は増加)	3,415	△55,269
オークション貸勘定の増減額(△は増加)	△1,932,364	71,449
たな卸資産の増減額(△は増加)	△154,133	194,304
仕入債務の増減額(△は減少)	△20,576	53,625
オークション借勘定の増減額(△は減少)	1,741,544	440,563
その他	△70,827	△196,801
小計	1,271,295	2,782,128
利息及び配当金の受取額	15,537	68,569
利息の支払額	△779	△315
法人税等の支払額	△846,240	△541,794
法人税等の還付額	233,190	40,002
営業活動によるキャッシュ・フロー	673,003	2,348,591
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△290,000	△340,000
定期預金の払戻による収入	300,003	290,000
有形固定資産の取得による支出	△13,478	△67,080
無形固定資産の取得による支出	△308,026	△264,704
敷金・保証金の返還による収入	35,541	99,894
その他	△769,337	△48,014
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,045,297	△329,905
財務活動によるキャッシュ・フロー		
株式の発行による収入	16,718	1,857
配当金の支払額	△359,562	△360,944
その他	△27,382	△3,456
財務活動によるキャッシュ・フロー	△370,226	△362,542
現金及び現金同等物に係る換算差額	7,587	26,398
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△734,933	1,682,541
現金及び現金同等物の期首残高	15,629,697	13,761,608
現金及び現金同等物の四半期末残高	14,894,763	15,444,150

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2019年1月1日 至 2019年6月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	四輪事業	デジタル プロダク ツ事 業	その 他 情報流通 事 業	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	6,151,448	1,871,979	1,364,375	9,387,803	572,918	9,960,721	—	9,960,721
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	75,367	—	—	75,367	287,111	362,478	△362,478	—
計	6,226,815	1,871,979	1,364,375	9,463,170	860,029	10,323,200	△362,478	9,960,721
セグメント利益 又は損失(△)	1,956,503	363,957	330,595	2,651,056	△156,411	2,494,644	△1,163,220	1,331,423

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、システム開発及び提供、通信及び運営保守サービスの提供、中古医療機器関連事業、海外事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△1,163,220千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用で、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 2020年1月1日 至 2020年6月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	四輪事業	デジタル プロダク ツ事 業	その 他 情報流通 事 業	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	5,643,190	2,953,309	1,328,392	9,924,892	491,660	10,416,552	—	10,416,552
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	77,246	—	—	77,246	253,466	330,713	△330,713	—
計	5,720,437	2,953,309	1,328,392	10,002,139	745,126	10,747,266	△330,713	10,416,552
セグメント利益 又は損失(△)	1,674,727	1,223,282	333,117	3,231,127	△237,742	2,993,385	△1,224,442	1,768,942

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、システム開発及び提供、通信及び運営保守サービスの提供、中古医療機器関連事業、海外事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△1,224,442千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用で、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

(連結子会社の吸収合併)

当社は、2020年5月12日開催の取締役会において、当社の完全子会社である株式会社アドバンスドコアテクノロジーを吸収合併することを決議し、2020年7月1日付で吸収合併いたしました。

1 合併の目的

株式会社アドバンスドコアテクノロジーは、これまでオークネットグループのシステム開発会社として、システム設計、開発やシステムの運用、保守を提供するシステムソリューション事業を提供してまいりました。また、オークネットグループ内においてはオークションに関連したシステムの保守、運用を担っており、この合併により、株式会社アドバンスドコアテクノロジーがこれまで培ってきたオークション関連システムの保守・運用の技術、ノウハウ等及び人材を当社のシステム部門と融合し、分散していたリソースを統合することで、当社におけるオークション関連システムの運用体制を強化するとともに、重複する管理コストを削減し、さらなる事業の発展を図ることを目的としております。

2 取引の概要

(1) 結合当事企業の名称及び事業の内容

結合企業の名称	株式会社オークネット
事業の内容	四輪事業、デジタルプロダクツ事業、その他情報流通事業、その他事業

被結合企業の名称	株式会社アドバンスドコアテクノロジー
事業の内容	システム設計、開発及び運用、保守を提供するシステムソリューション事業

(2) 企業結合日

2020年7月1日

(3) 企業結合の法定形式

当社を存続会社とし、株式会社アドバンスドコアテクノロジーを消滅会社とする吸収合併方式です。

(4) 結合後企業の名称

株式会社オークネット

(5) 吸収合併に係る割当ての内容

当社の完全子会社との合併であるため、合併による一切の対価の交付はありません。

(6) 実施する会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 平成31年1月16日)及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 平成31年1月16日)に基づき、共通支配下の取引として会計処理しております。

(取得による企業結合)

当社は、2020年5月26日開催の取締役会において、株式会社東京砧花き園芸市場の全株式を取得し、子会社化することを決議し、2020年7月1日に全株式の取得を完了しております。

1 企業結合の概要

(1) 被取得企業の名称及び事業の内容

被取得企業の名称	株式会社東京砧花き園芸市場
事業の内容	鉢物を中心とした卸売り販売

(2) 企業結合を行った主な理由

株式会社東京砧花き園芸市場は、世田谷中央卸売市場内に所在し、創業以来洋ラン・観葉植物・ガーデニング素材などの鉢物を中心とした品質・品揃えを強みに持つ卸売り会社であります。世田谷中央卸売市場は、他の現物市場との比較において立地・環境に優位性があり、業界トップクラスの買参人及び生産者並びに高級品が集まる市場となっています。

当社グループ会社である株式会社オークネット・アグリビジネスでは、切花を中心とした花きのWEBオークション及び流通に付随する情報提供サービスを展開しておりますが、切花・鉢物のバランスのとれた花の総合流通市場の運営によるさらなる事業拡大を目指しております。

そこで、株式会社東京砧花き園芸市場の子会社化後の相乗効果を慎重に検討した結果、当社グループのより一層の収益力の向上や競争力の強化に資するものであり、投資金額の回収が充分可能であるとの判断から、株式会社東京砧花き園芸市場の全株式を取得することといたしました。

(3) 企業結合日

2020年7月1日

(4) 企業結合の法的形式

現金及び預金を対価とする株式取得

(5) 結合後企業の名称

名称に変更はありません。

(6) 取得した議決権比率

100%

(7) 取得企業を決定するに至った主な根拠

当社が現金及び預金を対価として、株式を取得することによります。

2 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得価額については、相手方の意向により非公開とさせていただきますが、公平性・妥当性を確保するため第三者機関から入手した株式価値算定報告書等を基に決定しております。

3 主要な取得関連費用の内容及び金額

現時点では確定しておりません。

4 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

現時点では確定しておりません。

5 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

現時点では確定しておりません。